

授業科目名	保育実習指導Ⅱ	教員名	山下 愛実	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	選択
					小学校教諭	選択
科目番号	JIS401	配当年次	4年前期		幼稚園教諭	選択
授業形態	演習				保育士	必修
単位数	1単位				こども音楽療育士	
科目					情報処理士	
施行規則に 定める科目区分						
一般目標	保育実習Ⅰa（保育所）を通して学んだ知識や技術等について振り返り、自己の課題及び養成校で学んだ教科の内容をもとに、新たな目標を設定する。また、保育実習Ⅱに向けて、子ども理解を起点として環境を整え、保育を立案、実践し、振り返るという保育のプロセスとその重要性を理解して保育実習Ⅱに臨めるようになることを目標とする。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育の理解を深める。 2. 実習や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育実践において必要とされる力を習得する。 3. 観察、記録及び自己評価等を通じた保育のプロセスについて、事例や演習を通して理解する。 4. 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の自己評価を行い、自身の課題や目標を明確にする。 					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「2. 教育者としての情熱を持ち、正しい倫理観と責任感を身につけている」「6. 教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	本講義は、保育実習Ⅰaの振り返りをもとに、保育実習Ⅱに臨む準備を行う。具体的には、実習目標の設定、実習日誌の書き方の見直し、保育指導案の立案・実践等を行う。また、異年齢保育や子育て支援、保育士としての職業倫理等を保育所保育指針解説や事例、実際の保育現場における参与観察等を通して学ぶ。アクティブラーニングとして、振り返り、個別の質疑応答、グループディスカッションなどを取り入れる。					
履修条件・注意事項	「保育実習Ⅱ」を実施する前の事前指導と実施後の事後指導で構成される。現場での実習に直接関わる授業であるため、全回数出席することが望ましい。意欲的・積極的に参加し、課題の提出を徹底する等、実習を通じた学びが充実したものとなるよう準備を進められるようにする。					
授業計画	<p>第1回：保育実習の意義・目的 学部長講話を通して、保育実習の意義と目的を理解し、保育実習Ⅰと保育実習Ⅱの違いを理解するとともに、自身の課題と目標を明確化する（目標1）。</p> <p>第2回：保育実習Ⅰaの振り返りと実習課題 保育実習Ⅰa及び教育実習における学びの共有を行う。エピソードをもとに、子ども理解を深め、子ども理解を起点とした保育の視点から考えを深めるとともに、自己の課題を明確化する。また、第1,2回の振り返りを踏まえて保育実習Ⅱの自己課題を設定する。（目標1,3）</p> <p>第3回：保育日誌について 子ども理解を起点とする保育実践への理解を深めるため、記録の書き方を再考する。また、作成したエピソード記録を読みあい、コメントしあうことを通して、子どもの育ちや経験の意味を多角的に議論する。</p> <p>第4回：保育施設における地域の子育て家庭の支援 保育施設における地域の子育て支援家庭を対象とした取り組みを参観することを通して、地域のニーズや地域の子育て支援の拠点としての保育施設の役割、子育て家庭支援事業の意義を考え、理解する。（目標2,4）</p> <p>第5回：子どもの育ちを支える保育者の適切な関わり（3歳未満児クラス） 3歳未満児クラスにおける参与観察を行う。その際に、保育者の子どもへの関わりに着目し、エピソード記録を作成する。また参与観察・エピソード記録の作成と共有を通して、子どもが自ら考え、主体的に行動する保育者の関わり（言葉がけや環境構成）について考え、子どもの育ちを支える適切な保育者の関わりについての理解を深める。（目標2,4）</p> <p>第6回：子どもの育ちを支える保育者の適切な関わり（3歳以上児クラス） 3歳以上児クラスにおける参与観察を行う。その際に、保育者の子どもへの関わりに着目し、エピソード記録を作成する。また参与観察・エピソード記録の作成と共有を通して、子どもが自ら考え、主体的に行動する保育者の関わり（言葉がけや環境構成）について考え、子どもの育ちを支える適切な保育者の関わりについての理解を深める。（目標2,4）</p> <p>第7回：指導案の立案・検討① 指導案を作成する上での配慮点について、子ども主体の保育実践や環境の工夫に着目して学ぶ。グループディスカッションを通して、子どもが主体的に活動するなかで生まれる学びを多角的に捉える視点を理解する。（目標2,3）</p>					

	<p>第8回：指導案の立案・検討② 立案・検討を行った指導案について、発表を行い、安全や遊びの没頭、発達段階に応じた配慮点等の観点から検討を行い、改善点を検討することで、子どもの育ちにつながる保育への理解を深める。（目標2,3）</p> <p>第9回：責任実習に向けて① 子どもが主体となる活動を立案し、環境を構成し、模擬保育を行う。その後、事後検討会によるディスカッションを通して、自己の課題を明確化するとともに、子どもの育ちを支える保育環境の工夫や人的環境としての保育者の役割についての理解を深め、実践力を養う。（目標2,3,4）</p> <p>第10回：責任実習に向けて② 子どもが主体となる活動を立案し、環境を構成し、模擬保育を行う。その後、事後検討会によるディスカッションを通して、自己の課題を明確化するとともに、子どもの育ちを支える保育環境の工夫や人的環境としての保育者の役割についての理解を深め、実践力を養う。（目標2,3,4）</p> <p>第11回：保育者の専門性① 「重大事故検証報告書」等をもとに、子どもの最善の利益を考慮した保育についてディスカッションを行い倫理観を養うとともに、保育者に求められる資質・能力について理解する。（目標4）</p> <p>第12回：保育者の専門性② 「重大事故検証報告書」等をもとに、子どもの最善の利益を考慮した保育についてディスカッションを行い倫理観を養うとともに、保育者に求められる資質・能力について理解する。加えて、児童憲章、全国保育会倫理綱領を通して、保育者の専門性について検討するとともに、自己の保育観・こども観を捉える（目標4）</p> <p>第13回：実習直前指導 実習に臨む心構え、諸注意、準備物等の確認をするとともに、実習生として守るべきことを確認する。特に、守秘義務、こども性暴力防止法について学び、子どもの人権を尊重する保育者の役割と子どもへの関わり方について理解を深める。実習中や実習後の手続きについても確認する。（目標1）</p> <p>第14回：事後指導① 実習を振り返り、実習を通して学んだこと、特に、保育者の援助に関する学びや責任実習を通じた学びを言語化し、明らかにする。グループワークを通して、学んだことを他者に共有し、保育を多角的に理解する。（目標5）</p> <p>第15回：事後指導② 実習を振り返り、実習の自己評価を行い実習での学びを確かなものにするとともに、保育士を目指すものとして今後の学修や学生生活等での自己課題や目標を明確にする。（目標5）</p> <p>定期試験</p>
授業外学修時間の確保について	<p>（事前・事後学習として週4時間以上行うこと。）</p> <p>事前学習：配布資料の確認、前回の講義内容の復習、提示する課題の作成等。理解不十分なことは次の授業で質問をすること。</p> <p>事後学習：講義内容の復習、振り返り・課題やレポート作成等</p>
学生に対する評価	<p>書類等の提出物・授業への参加貢献度15%、観察レポート15% 模擬保育30%（検討会への参加姿勢10%、教材研究・事前準備10%、実践レポート10%） 実技課題10%、実技試験10% 実習報告書10%、実習報告会での発表10%で評価する。 60%以上を合格とする。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。 ・答案例を配布する。</p>
テキスト	『保育所保育指針解説』 厚生労働省 フレーベル館
参考書・参考資料等	『新版遊びの指導一乳・幼児編一』 公益財団法人 幼少年教育研究所(編) 同文書院 参考資料等：毎回の授業で配布する
担当者からのメッセージ	大学での最後の実習において学びを深めるため、授業への意欲的な取り組みを期待します。止むを得ない理由で欠席する場合は前もって授業者に連絡し、後日必ず補講を受けに来るようにすること。
オフィスアワー	毎週 金曜日 9:05~10:35（メール等でアポイントを取ることに）
備考	